

城北中学校・高等学校

城北が育てる“未来を創る力” 充実のICT環境が支える 探究心あふれる学びの現場



城北中学校・高等学校

校長 **清水 団** 先生

城北中学校・高等学校は、教育者で儒学者の深井鑑一郎氏が教え子と共に教育への強い情熱を持って創立した学校です。以来80年以上にわたってその情熱を受け継ぎ、学力形成においても人間形成においても、教職員が一丸となって手厚く生徒たちをサポートしています。特に重視しているのは、これからの社会で必要とされる発想力や課題解決力の育成です。そのためにICT教育を推進し、生徒の学習意欲に応える環境の整備に力を入れています。2025年度から校長に就任された清水団先生に、同校の教育方針と教育内容について伺いました。

聞き手



サピックス
総合教育研究所 顧問
神田 正樹



サピックス吉祥寺校
校舎責任者
西山 心悟



教育目標は「人間形成と大学進学」 生徒の希望を実現させるのが責務

神田 初めに、学園の沿革についてご紹介ください。

清水 城北学園は1941(昭和16)年に教育者の深井鑑一郎先生と、その教え子である実業家の井上源之丞先生によって創立されました。戦時下の厳しい時代ではありましたが、進学を志す若者に学びの場を与えたいという強い信念の下に誕生したのが本学園です。以来、これまでに約3万7000人の卒業生を社会に送り出してきました。

神田 深井鑑一郎先生は、旧制東京府立第四中学校(現・東京都立戸山高等学校)で40年もの間、校長を務めた方で、先生が編さんした漢文教科書が全国の学校に普及するほどの儒学者でもありました。その四中時代の教え子だったのが、のちに凸版印刷の社長となり、第2代理事長となる井上源之丞先生なのですね。さらに、府立四中の教師だった近藤薫先生が第2代校長に就任され、このお三方が城北学園の礎をつくったと伺っています。戦時下の大変な時代に新しい学校を築こうと努力された、この大きな熱量が伝統となり、今も大きなエネルギーになっているのではないかと思います。

清水 深井先生も「わたしたちの生徒はわ

たしたちが見ていくのだ、わたしたちが育てていくのだ」とおっしゃっています。本校はよく「生徒と教員との距離が近い」という評価をいただきますが、学校でできるだけことをしてあげたいという意識が、わたしも含めて教職員全体に浸透しています。

神田 清水先生はどのような経緯で学園とかかわられたのですか。

清水 わたしは早稲田大学の教育学部理学科を卒業後、大学院の理工学研究科で、教育現場でのコンピューターの活用について研究をしました。その後、数学の教員として本校に着任し、2025年で30年目を迎えます。数学を教える一方、ICT教育・環境の整備や入試の取りまとめなども行ってきました。特にICTについては、中心となって進めてきた経緯もあり、今後もさらなる構築に力を入れていきたいと考えています。

神田 教育目標は「人間形成と大学進学」ですね。これについてご説明いただけますか。

清水 人間形成とは、「社会を支え、社会を導くリーダーとして活躍する人間、人と人をつなぐことのできる人間の育成」です。これに「大学進学」という具体的な目標を加えているのは、深井先生の考えに基づくものです。深井先生は、中等教育の役割は必要な学問・素養を身につけさせることにあるけれど、上級の学校への進学をめざす生徒の希望を遂げさせるのも重要な責務だ、と





人間形成と大学進学によって夢を追いかけ、 社会の第一線で活躍する人になってほしい。

おっしゃっています。人間形成と大学進学によって夢を追いかけ、将来は社会の第一線で活躍する人を育てるのが本校の務めだと考えています。

中3から設置する選抜クラスは より高みをめざすきっかけに

西山 中高6年間は2年ごとに「基礎期」「錬成期」「習熟期」の3期に分かれています。校舎もそれに合わせた構造になっているそうですね。

清水 中1・2の基礎期は中学棟の校舎で、中3・高1の錬成期と高2・3の習熟期は高校棟で生活します。それぞれの学年に対応できるよう、教室が並ぶフロアの中心に職員室を配置しています。中学棟の職員室前の廊下はゆったりしているので、そこに机と椅子を置いて、生徒の質問に答えたり、ちょっとしたテストをしたりできるようになっています。大きなホワイトボードもあるので、わたしがそこに数学の問題を書いておくと、生徒が考えて答えを書いていきます。

基礎期は学校生活がきちんと回っていくことが土台になります。小学校から中学校に上がったときの環境の変化は、生徒によっては大きな負担になります。そのなかで学習をしながら学校行事や部活動・委員会活動

など、さまざまなことに取り組まなくてはなりません。ちょっとしたことでうまくいかなくなる可能性もあるので、担任を中心にきちんと見ていくように心がけています。

西山 中3・高1の錬成期には選抜クラスが設けられていますね。

清水 その時期は、将来に向かう移行期で、それまでは教員や親に言われてやってきたことを、少しずつ自分でできるように転換していく時期でもあります。中3から7クラス編成になり、そのうち2クラスが選抜クラスです。高1では成績順でクラス分けをします。これは勉強のモチベーションになり、目標設定もしやすくなります。

高2・3の習熟期は志望校への進学という明確なゴールがあり、わたしたちはそれを後押ししていく時期になります。高2で文系と理系に分かれ、高3では志望校別にコースが分かれます。文系・理系ともに選抜クラスがあり、切磋琢磨する関係が広がります。成績上位の生徒を中心とした学びの場ができ、その生徒の姿を見て「自分もがんばろう」と思う生徒も出てきます。こうした波及効果があるのが、学校で学ぶ意味の一つではないかと思います。ただし、すべてが順調に進んでいくわけではありませんから、わたしたち教員が支えることも重要となります。

神田 先ほどICT教育のお話がありました

が、清水先生はSNSを使って数学の問題の解説をしたり、世界的な数学者の意見など、生徒の興味・関心が広がる話題を数多く投稿したりされていますね。

清水 学校では忙しくてなかなかできないことも、SNSなどのツールを利用すると空き時間で対応できます。SNSでは数学や数学教育、コンピューター、プログラミング言語といった話題を発信しています。数学の授業で取り上げた問題などには、大きな反響があることもあります。別の解釈を紹介してくれる方がいたときなど、それを生徒にフィードバックすると学びも広がります。あるプログラミング言語を授業で取り上げたことを紹介したら、その開発者の方がコメントを寄せてくださいました。また、トルコの教師の方からメッセージをいただいたこともあります。こうしたテクノロジーは、生徒たちがこれからさらに学びを深めていく際に役立つツールになると思います。
神田 そうしたツールを通してグローバルなつながりが生まれてくれば、生徒にとっても大きな刺激になりますね。

ICTの基礎から学ぶ総合学習 成果は中3の卒業研究で発表

西山 中学には卒業研究があります。中3になると自分でテーマを決めて研究を進め、3学期に発表するという流れですが、中学3年間の総合学習「情報」でICTの基礎から応用までを学ぶので、卒業研究の発表はICT教育の集大成ともいえますね。

清水 卒業研究のテーマは自由で、どんな分野でも構いません。たとえば、木材で飛行機を作って飛ばした生徒もいました。発表のときに、河川敷で飛ばしている動画を見ましたが、飛ばしては作り直すという作業を何回も繰り返していました。また、陸上競技部に所属し、自分の走行フォームを録画して分析し、どうしたら速く走れるのか考察した生徒もいました。そういう姿を見ると、何かを「創造したい」「探究したい」「問題を解決したい」という生徒たちの思いを感じます。実は、こうした生徒の思いをICTで後押ししたいと考えたのが、本校がICT教育の推進に踏み切った理由でもあります。

西山 施設・設備も充実していますね。全

教室に65インチの大型モニターを中心とするICTユニットが導入されています。また、生徒はBYOD (Bring Your Own Device) で好きな端末を利用していると伺いました。さらに、「iRoom」というアクティブラーニング専用教室もあるとのことですが、ここはどのように使っているのでしょうか。

清水 iRoomは、卒業研究に向けた総合学習のために設けた教室です。総合学習ではプログラミングも学ぶため、ICT環境に慣れる必要がありますから、授業で使えるものをすべて整備しています。実は2024年、「パソコン甲子園」で本校の生徒2人が見事に予選を突破し、本選に出場しました。そのうち1人は中学で初めてプログラミングに触れた生徒でした。以前から好きで取り組んでいたのかと思うほどの実力だったので、それを聞いて驚きました。

西山 入学してから興味が湧いて自分で学びを深めていったのですね。素晴らしいです。

神田 清水先生はICT教育を推進するに当たって、マサチューセッツ工科大学 (MIT) のミッチェル・レズニック教授の考えを参考にされたそうですね。

清水 以前、アメリカの教育機関を視察したとき、MITメディアラボのレズニック教授とお会いして、話したことがあります。教授のお考えは広く紹介されていますが、大切なのは「創造性」であり、そのためのポイントは「Projects」「Passion」「Peers」「Play」の四つの「P」だとおっしゃっています。つまり「遊び心」を持って「仲間」と共に「情熱的に「プロジェクト」に取り組みながら学ぶ環境が大事ということです。とても共感しました。

神田 モチベーションになるのはやはり「遊び心」ですね。楽しいと思えないと、なかなか取り組めないものです。

清水 わたしたちが推進するICT教育でも創造性を大切に、四つの「P」の視点で生徒を後押ししていきたいと考えています。

海外で多様な社会や考えを知り 問題解決への意識を高めてほしい

西山 海外研修としては、まずオーストラリアでの語学研修があります。これは中3・高1の希望者を対象とした夏休みのプログ



上/大学進学を専門的にサポートする進学センターを2024年に拡充。多くの生徒が自習で利用しています

下/アクティブラーニング専用教室「iRoom」。ホワイトボードとプロジェクターが4方向に設置されています



上/広々としたキャンパスには本格的な運動系・芸術系・文化系施設がそろい、生徒たちはさまざまな活動に取り組んでいます

下/正門の近くに設置された、創立者の深井鑑一郎先生と井上源之丞先生の銅像



ラムで、高1対象のターム留学や、高1・2対象のセブ島上級者語学研修もありますね。

清水 セブ島での語学研修は、高1・2の一定以上の英語力がある生徒を対象に行ってきました。2025年度から行き先をシンガポールに変更します。内容も少し変わり、さまざまな教育的なアクティビティーを取り入れる予定です。

神田 シンガポールは、多民族が共存する国です。素晴らしい体験ができると思います。

清水 海外でいろいろなものを見て、触って、人と出会う、それだけでも考えることはたくさん出てきます。やはり情報として知っていることと、実際に見て感じることは違います。海外の人と実際に会って交流した経験がベースにあると、「こういう意見もあるけれど、そんな人ばかりではない」ということがわかります。彼らがこれから生きる社会では日本人だけでなく、さまざまな国の人たちと協力して活動していくことになるでしょう。世界に目を移せば、いろいろな問題があることに気づきます。そのなかでみずから問題を解決したいと思える人、解決できる人になることを強く願っています。

進路へのモチベーションが高まる 順天堂大学との連携プログラム

神田 進路指導も非常に充実しています。進路に合わせた選択科目・選択ゼミ、夏期・冬期の講習会、大学生を招いての入試懇談会など、プログラムが盛りだくさんです。また2023年には順天堂大学と高大連携協定を結び、医学部志望者を対象としたプログラムも行っていると伺っています。これはどのような内容ですか。

清水 年2回のプログラムで、順天堂大学の

スタッフの方が本校に来て、医学・医療への理解を深めるためのワークショップのようなことをしていただいています。順天堂大学が開発したカードゲームがあって、けっこうおもしろいですよ。実際に大学に行き、医療現場や研究施設の見学、最先端のロボット手術に関する体験などもさせていただいています。本校は医学部志望者が多いので、こうした機会があることは生徒たちのモチベーションを高めてくれます。

神田 順天堂大学には素晴らしい先生方がいらっしゃいますし、医師国家試験の合格率はトップレベルです。医師をめざす生徒の意識も高まるのではないのでしょうか。2025年春の大学入試結果ですが、現役生の進学先の割合を拝見すると、国公立大学が全体の21%、早慶レベルの難関私立大学が同じく21%となっています。既卒生を含めると、国公立大学に115名が合格しました。そのうち現役は77名です。私立大学では東京理科大学の合格者が143名と最も多く、早稲田大学の111名がこれに次いでいます。医学部には国公立を合わせてのべ52名が合格しています。やはり志望校に向かうモチベーションをしっかり育てていることが、強みになっているのではないかと感じます。

西山 最後に、中学受験を控えた受験生と保護者の方にメッセージをお願いします。

清水 学ぶことは本当に楽しいことです。学ぶなかでその大切さも実感できます。本校で「こんな勉強をしたい」「こんな活動をしたい」という希望のある方を歓迎します。クラブもいろいろありますから「部活も熱心に取り組みたい」でもいいと思います。本校のことを知って魅力を感じていただけるなら、ぜひ一緒に学びましょう。

神田 本日はありがとうございました。



Profile

城北中学校・高等学校
所在地：〒174-8711
東京都板橋区東新町2-28-1
東武東上線「上板橋」駅から徒歩10分
東京メトロ有楽町線・副都心線「小竹向原」駅から徒歩20分
TEL：03-3956-3157
URL：www.johoku.ac.jp